

|   | 住民ができること  | ×<br>(かける)             | 行政にしてほしいこと   |
|---|---|------------------------|--|
| <p>災害への備え</p>     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自助・共助が大事である</li> <li>・津波てんでんこ※の気持ちを持つ</li> <li>・消火技術の取得</li> </ul> <p>※津波が来たら、いち早く各自でんでんばらばらに高台に逃げろという三陸地方に伝わる教訓のこと</p>  | <p><b>自助・共助・公助</b></p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難路の維持管理</li> <li>・事前の対策(減災対策・事前移転)</li> <li>・地震と津波の予測精度を上げる</li> <li>・空家を解消する</li> <li>・電柱の無電柱化(倒壊による道路寸断を防ぐ)</li> <li>・災害前に高齢者は集合住宅に住んでもらう(特に一人世帯)</li> <li>・消火BOXの設置</li> <li>・他県のモデルケースの情報収集</li> <li>・仮設トイレの保管場所を浸水しないところへ移してほしい</li> </ul> |
| <p>被災時の助け合い</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・住民同士の意見の一致</li> <li>・住民の助け合い</li> <li>・組織力・町内会のつながり</li> <li>・行政に協力する</li> <li>・ボランティア活動(片付けなど)</li> </ul>               |                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・豪華客船と協定して、避難所とする</li> <li>・行政がより正確に防災情報を住民に伝える</li> <li>・県と市が連携する</li> </ul>    |
| <p>復興まちづくり</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前復興の知識を地域で広める</li> </ul>    |                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・住民の考えをよく把握する(行政と住民の話し合いをする)</li> <li>・各地区にどれだけ復興資金が充てられるのか教えてほしい</li> <li>・迅速な施設の復旧・住まいの再建</li> <li>・道路等のインフラの復旧</li> <li>・複合施設(ふれあいセンターを含む)の建設</li> <li>・豊かな自然の再生(松林・大平山)</li> </ul>  |
| <p>共通</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふれあいセンターを防災拠点にしたい</li> <li>・地域の人が集まる場を整える</li> <li>・住民と行政が一体となって復興に取り組む</li> </ul>  |                        |  |

その他たくさんのご意見をいただきました

●お知らせ

ワークショップだけでなく、ホームページ上に掲載した「意見投稿プラットフォーム」でも意見を募集していますので、気軽にご回答ください。



●お問い合わせ先

高知市 防災対策部 防災政策課  
 事前復興まちづくり担当  
 TEL:088-823-9055  
 FAX :088-823-9085  
 Mail:kc-080200@city.kochi.lg.jp

# 高知市 事前復興 まちづくり ニュース VOL.2

R8.2.5

## 三里地区 事前復興まちづくり計画 第2回ワークショップ (仁井田地区)を 開催しました!

地域の方  
19名参加

ワークショップでいただいたご意見のまとめ  
 意見交換1は2ページ、意見交換2は3ページ、ワーク4は4ページです

12月19日(金)、三里ふれあいセンターで、三里地区事前復興まちづくり計画第2回ワークショップ(仁井田地区)を開催しました。意見交換1では「三里地区の復興ビジョン」、意見交換2では前回の復興パターンから地域の方の意見を反映した「修正復興パターン」、ワーク4では「速やかに復興するために必要なこと」について、みんなで話し合いました。



第1回 R7.8.27開催

ワーク1 三里の良いところ・残したいもの、普段の生活で困っていること

ワーク2 復興パターン2案について

ワーク3 楽しくなるような未来のまちを想像する



第2回 R7.12.19開催

意見交換1 復興ビジョンについて

意見交換2 修正復興パターンについて



ワーク4 速やかに復興するために必要なこと



第3回 令和8年3月頃開催予定

ワーク5 災害が起きる前からできること



## 意見交換1 三里地区の復興ビジョンについて話し合いました。

### 復興の目指すべき姿=ビジョンを考えよう→第1回ご意見から3案作成し意見交換

○第1回ワーク1~3の結果をもとに考えたビジョン案を提案しました

案1「資源」を主軸

『海・なりわい・歴史の魅力に溢れた 住み良い安心と絆のまち』

案2「防災」を主軸

『人・海・歴史が繋がる 災害に強く、住み続けたいまち三里』

案3「コミュニティ」を主軸

『自然と産業が調和し、人と地域が支え合う、安心を育むまち 三里』

○各班で議論したものを、発表していただきました！

#### ・グループ1 案1を評価

復興にはなりわいが大事だと思う。

3案とも同じ内容で変わらないのではないかと。被害の大きさがわからない状況で復興ビジョンを決めることは難しい。

#### ・グループ2 案2、案3を評価

三里には自然があり、復興に際して働く場所が必要になるため、自然と産業の両方が必要。また、どうしても外せない「災害に強い」というフレーズも取り入れた「自然と産業が調和し災害に強く、住み続けたいまち三里」という復興ビジョンでまとめた

#### ・グループ3 案1、案2、案3を評価

3つの案とも大事だと思う。その中でも、「歴史」「ふるさと」「伝統・文化」「災害に強い」といったキーワードが大事だと思う。

#### ・グループ4 3つの案から選べない

基本理念の「住まいと暮らし」と「なりわい」が重要だと思う。住まいと暮らしの中でも公共交通の便が少ないという課題を重視して取り組む必要があると思う。また、東日本大震災での復興事例を参考に復興ビジョンを考えることができるのではないかと。

上記以外にもたくさんのご意見をいただきました

#### 【まずは防災】

- ・まずは命があることが大事である
- ・復興については、1人1人が動けるということが最低条件である(災害から命を守る)
- ・復興するためには、防災の拠点となる場所が必要である



#### 【なりわいについて】

- ・なりわいについては、被災により地域に人がいなくなるため復興できるか不安である
- ・なりわいの復興が今後の復興の意欲にもつながってくる



#### 【地域の特性を考慮して欲しい】

- ・それぞれの地区で特性が違うため、復興ビジョンを1つにまとめるのは難しいのではないかと

#### 【みんなにわかりやすく!】

- ・案3の「自然と産業が調和する」というワードがわかりにくいのではないかと
- ・「安心を育む」は漠然としていると思う

#### 【「人」を主軸に】

- ・復興では人を主軸とするべきではないかと
- ・子どもたち(次世代)が住み続けたい(残りたい)まちづくりが大事ではないかと
- ・「歴史」「ふるさと」「伝統・文化」を子供たちに残したい



各地区の意見をまとめ、第3回ワークショップで最終的に三里地区のビジョンをお示しします。

## 意見交換2 修正復興パターンについて意見を共有しましょう。

| 1-A案(原案)<br>甚大被害エリア<br>高上げ型   | 1-B案<br>地区一体高上げ型  | 1-C案<br>浸水エリア一体高上げ型  | 1-D案<br>地区道路ネットワーク<br>形成型  |
|---|---|--|--|
| 甚大な津波被害想定地区の高上げ・土地区画整理  | 種崎地区全体を一体高上げ案・土地区画整理  | 種崎地区の浸水エリア全体を一体高上げ・土地区画整理<br>地区道路のネットワーク整備   | 甚大な津波被害想定地区の高上げ・土地区画整理<br>地区道路のネットワーク整備  |
|   |   |  |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 高上げ(区画整理事業)</li> <li>■ 県道</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 高上げ(区画整理事業)</li> <li>■ 県道</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 高上げ(区画整理事業)</li> <li>■ 市道 道路整備(4m)</li> <li>■ 県道</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 高上げ(区画整理事業)</li> <li>■ 市道 道路整備(4m)</li> <li>■ 県道</li> </ul> |

#### B案

- ・家が残るため、区画整理に時間がかかるのではないかと
- ・次世代のことを考えたらきれいな(安心できる)まちにしてほしい
- ・かなりの大規模工事となるため、現実的に難しいのではないかと

#### C・D案

- ・B案に比べて復興期間が短い1-C案もしくは1-D案がいいのではないかと

#### B・C・D案

- ・被害状況に応じて3つの案を使い分けたいのではないかと

#### 道路のこと

- ・種崎地区の道路は狭いため、道路幅員をしてほしい(小規模な幅員でよい(4m程度))
- ・平時の時と比べて災害後の方が道路幅員しやすいのではないかと(事業として)
- ・道が狭く、舗装もされていない場所がある
- ・仁井田地区は南北の道が狭い(畑付近)



#### 区画整理のこと

- ・親・高齢者世代は区画整理の事業期間が長いので、別の場所に移転するのではないかと
- ・区画整理を行う範囲の被害を受けていない家はどうするのか



#### 移転先のこと

- ・浸水しない地域に集合住宅を建設して、集約化してはどうか
- ・住吉池を埋め立てて移転先にしたなら、川からの浸水(十津地区)も解消されるのではないかと(例:医療センターの地盤高に合わせて埋立)



#### 高上げについて

- ・人口が減少している状況で、高上げしても人がいないのではないかと
- ・高上げには時間がかかる

